

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4290100306
法人名	医療法人長寿会 清原龍内科
事業所名	グループホーム イチョウの木
所在地	長崎県長崎市川口町8番20号清原ビル (電話) 095-813-0010
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 2月 28日

【情報提供票より】 (平成19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 10月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	23 人
利用定員数計	27 人
常勤	20人
非常勤	3人
常勤換算	4.73人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	6階建ての 4 ~ 6 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要 (2月 28日現在)

利用者人数	27 名	男性	9 名	女性	18 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	6 名		
要介護5	9 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人長寿会清原龍内科、朝永整形外科医院、角町歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は長崎市の中心部にほど近く、交通の便が良い場所に位置した母体の医療機関のビルの中にある。ターミナルケアを重視した理念を職員が十分に理解し、利用者中心の介護支援を実践している。重度の利用者が多くいるが、管理者2名が看護師であるため家族の望む一日でも長く本人らしい生活をするために医療ケアを中心とした支援を行うことができている。専門的な勉強のために内部、外部研修がそれぞれ月に一度開催され、職員も参加できる体制になっている。同業者の依頼があればターミナルケアについての指導に出向き、他事業所の新人研修を引き受けるなど同業者との交流も密である。重度化する利用者と家族の希望を叶えるためにも、今後ターミナルケアを理解し、十分に支援できる事業所が多く必要となる。そのためにも同業者の指導、育成に期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	外部評価の結果は、改善シートを作成して会議で話し合い改善内容を確認し、改善できるところから改善している。改善例としては運営理念のパンフレット掲載、町内の行事参加、家族の意見の反映などが挙げられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は全職員に配布し各ユニットの管理者が作成している。新人職員には自己評価票をもとにグループホームの意義や職員の介護姿勢等の教育をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議については、要綱が定められており、今年度は3回開催されている。構成メンバーは自治会長、家族、地域包括センター、事業所である。内容は外部評価や活動の報告、地域の様子を含めた意見交換となっている。避難訓練については、事業所から自治会へ協力の依頼をした。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	年2回の家族会で意見を聞き、検討した結果や改善した結果を家族に報告している。また普段から相談、意見が言いやすいように職員が話しかけている。苦情窓口は内部外部とも明らかになっており、重要事項説明書にも掲載し家族にも説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	事業所は自治会に入会しており、大掃除や浦上くんち、日帰りバス旅行に参加している。周囲に住宅が少ないため、近くの市場に出かけあいさつや会話をして利用者と地域の交流を図っている。

2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「認知症という病気を持つ入居者の方々が病期のどの段階でも普通の生活が出来るように専門的に援助いたします」であり、これを基本とした4項目の介護理念もある。ただし、地域密着についてはまだ検討していない。	○	地域密着のサービスについて事業所がどう捉えていくか、理念を再度検討することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が看護師であり、理念をもとに専門的なターミナルケア、看取りを行っており、職員も共有し利用者主体の支援を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に入会しており、大掃除や浦上くんち、日帰りバス旅行に参加している。周囲に住宅が少ないため、近くの市場に出かけあいさつや会話をし利用者との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、改善シートを作成して会議で話し合い改善内容を確認し、改善できるところから改善している。自己評価は全職員に配布し各ユニットの管理者が作成している。新人職員には自己評価票をもとにグループホームの意義等教育している。		

グループホーム イチョウの木

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、要綱が定められており、今年度は3回開催されている。構成メンバーは自治会長、家族、地域包括センター、事業所である。内容は外部評価や活動の報告、地域の様子を含めた意見交換となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長崎市からの介護相談員の訪問や、集団指導の研修を受講している。また事業所から長崎市へ成年後見人制度の手続きについて相談したいと連絡しているなど、連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「日常の御様子」と「イチョウの木プレス」を郵送し、各家族へ利用者の暮らしぶりや健康状態、職員異動などを知らせている。訪問時には金銭管理ノートの確認をお願いしサインをもらっている。年始あいさつの電話は利用者が直接話している。また、容態の変化は密に連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会で意見を聞き、検討した結果や改善した結果を家族に報告している。また普段から相談、意見が言いやすいように職員が話しかけている。苦情窓口は内部外部とも明らかになっており、エレベーターホールに掲示し、重要事項説明書にも掲載し家族にも説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間、法人内事業所間の異動はあるが、専門学校卒、大学卒の新社会人を採用するため先入観がなく、事業所の教育が浸透しやすく熱心に職務遂行にあたっているため離職者は少ない。異動の場合は研修として早めに新しい勤務先へ出向き利用者が馴染めるよう配慮している。		

グループホーム イチヨウの木

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は1ヶ月の研修期間中にホーム長等の一日の流れの説明を聞き、3ユニットを順番に回り職員について実習を行っている。1年後に内部研修会にて一年間の発表をしている。内部研修と長寿会勉強会という外部混合の研修をそれぞれ月に一度開催している。また月に一度事例検討会をしており、全国大会で発表することもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新人は法人代表である院長の他事業所の往診に同行し、見学をしている。また他事業所の新人研修の受入れをし、依頼があれば、ターミナルケアの指導に出向くなど相互に交流している。長寿会勉強会には他事業所からの参加も多く、同業者との交流は盛んである。ただし、まだ当事業所のようなターミナルケアが実践できる同業者が少ない。	○	重度化する利用者と家族の希望を叶えるためにも、今後ターミナルケアを理解し、十分に支援できる事業所が多く必要となる。同等の支援体制を備える事業所が増えることは、当事業所にとっても互いに協力する関係が構築でき、更にサービスの質の向上に繋げることができる。そのためにも同業者との交流の中で他事業所のレベルアップにつながる更なる取組みに期待したい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くは法人内のデイサービスを利用しており、違和感なくサービス開始している。開始前はケアマネージャーと院長が利用者宅を訪問し、家族を交えて様子を聞き相談しながら進めている。入居後は職員間で様子を情報交換し、無理なく馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として子育ての相談や料理の味付け、立ち居振る舞い、服のたたみ方など教えてもらっている。また若い職員は時間が許す限り傍にいて会話するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の表現が困難な利用者の場合は、傍に寄り添い話しかけることで目の動きや表情の変化を汲み取るよう工夫している。職員が笑顔で対応すると利用者も笑顔になるので、職員は笑顔で接するように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族とは相当の時間を取り、じっくりと希望や意見を聞き取り計画に反映している。担当医の指示や毎朝の申し送りを基に3ヶ月に一度、サービス担当者会議を開いて検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時からしばらくは専門的支援を受けることによる利用者の状態改善の変化が頻繁になるためその都度見直しており、落ち着いてからは3ヶ月に一度計画を見直している。また急な変化や退院後の見直しはその都度、家族に報告して変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望で職員が付き添い鹿児島まで里帰りしたり、月に一度教会に行ったり、墓参り、思い出の学校を訪ねるなど利用者の要望には柔軟に可能な限りの支援をしている。		

グループホーム イチヨウの木

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居するまで受診していたかかりつけ医に関しては本人、家族に希望を聞きそれに従い支援している。皮膚科は往診があるため利用しているなど適切な医療受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケア、看取りまでを理念に掲げ家族に説明しており、院長、看護師である管理者を中心に職員全員で支援している。重篤な時期に入ると家族への連絡を密にして、希望があれば家族の宿泊にも対応している。また終末期には看護師が交替で泊り、職員の不安を軽減し一緒に見守っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ユニットごとに書類は管理室に保管しており、外部者の目に触れないように注意を払っている。職員には個人情報保護に基づく守秘義務の厳守に関する誓約書を取っている。また、職員は利用者が呼ぶ際には手を止めて対応するなど尊厳を損ねないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度の利用者には介護ケアと医療ケアが必要であるため本人の希望した暮らしであるかは判断が難しいが、その人の一日の生活を考慮しながら支援している。また食事に一時間かかる利用者には職員が付き添い急がせず本人のペースに合わせている。		

グループホーム イチヨウの木

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	水曜は刺身の日、パン食の日など利用者が食事を楽しめるよう工夫しており、一緒に買い物に出かけている。調理する匂いも大切と考え、お好み焼きやピザなども手作りしている。職員は利用者の間に入って目を配るようにしており、持参の弁当を食べているが、利用者と話しおかずを交換するなど楽しい食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日を決めておらず、夜間以外は毎日自由に入浴できる。入浴拒否の利用者には入浴剤を入れて促したり、タイミングを見て支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度の利用者も寝たきりにならないよう屋上で外気浴をしたり、食事の時には食卓について一緒に食べるなどしている。また、都々逸を歌ったり、ケーキを食べに行ったり、お花見など利用者の楽しみごと、気晴らしを職員は見守りながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園、喫茶店、屋上の自家菜園など日常的に外出する機会を多くしている。陶器店で湯のみを買ったり、クリスマスプレゼントの買い物も利用者が外出する機会として支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに職員が見守りで対応している。これまでに数回、外に出たケースがあるが、事例検討の議題として職員にも周知しており、警察、バス、タクシー会社等にも協力依頼を行っている。夜間は事業所のあるビルの1階入口に防犯上シャッターが下りるため、利用者が一人で外へ出ることはできないようになっている。		

グループホーム イチョウの木

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回利用者も一緒に避難訓練を実施している。その内1回は消防署立会いで消防訓練も行い、消防計画書も作成している。また毎月防火訓練自主点検表を記録している。運営推進会議では避難の際の地域の協力も依頼している。平成21年度消防法改正に合わせて来年度スプリンクラーを設置する予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録しており、体重の増減記録と合わせて検討している。また、3ヶ月ごとに栄養士のチェックを受け指導を受けている。水分量の確保に配慮し、毎食後と10時、3時のお茶の時間にも提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや食卓テーブル、調度品は家庭的な物が備えてあり、ビルの中とは感じさせない工夫がみられる。日当たりも良く、換気も十分にできていて快適に過ごせるよう配慮している。季節の花が活けてあり季節感を大切にしている利用者にとって居心地にいい空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談して、利用者が自宅で使っていた馴染みのたんす、鏡台、ふとん、仏壇などが持ち込まれており、本人にとって家庭と変わらない心地いい場所となっている。		

※  は、重点項目。